

児童生徒の確かな力を育む学びを目指して

中村くみ子・本間清香・高橋幸・赤坂樹里・佐藤佑哉・小原一志*, 上濱龍也**

*岩手大学教育学部附属特別支援学校, **岩手大学教育学部

(令和4年3月14日受理)

1 はじめに

観点別評価に取り組んだ前次研究¹⁾の課題として、児童生徒が自分の力を限られた授業場面だけでなく様々な場面で発揮できるようカリキュラム・マネジメントが必要であることが挙げられた。

児童生徒が様々な場面で自分の力を発揮するためには、もっている力をいつでもどこでも誰とも発揮できるような確かな力に育てることが必要である。これまでは教育課程の中心に据えている各教科等を合わせた指導に着目して授業づくりに取り組んできたが、児童生徒がもっている力を確かな力に育てていくためには、教科別の指導等にも目を向け、児童生徒がそれぞれの学習で身に付けた力を様々な生活場面で発揮できるようにしていく必要があると考えた。

また、特別支援学校学習指導要領を踏まえ、カリキュラム・マネジメントを実施するためには、本校における「育成を目指す資質・能力」を明確にし、それらの資質・能力を育成できるよう教科等横断的な視点で教育課程を見直し、児童生徒の学びを検討していくことが必要であると考えた。

2 研究の目的

本校の「育成を目指す資質・能力」を明らかにし、教科等横断的な視点で教育課程を見直し、生活場面で発揮できる確かな力の育成を目指す。

3 研究の方法と内容

- (1) 本校の「育成を目指す資質・能力」の明確化
- (2) 児童生徒の学びをつなげる指導計画の作成
- (3) 各教科等を合わせた指導と教科別の指導との関連を踏まえた授業実践

4 研究構想

(1) 「育成を目指す資質・能力」の位置付け

特別支援学校学習指導要領総則編²⁾には、「育成を目指す資質・能力」について、「教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力」と「教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成」について示されている。田淵(2020)³⁾は、学校教育目標の実現には各教科等の枠組みを踏まえて育成する資質・能力とそれらを教科等横断的な視点で捉えて育成する資質・能力という2層の構造が重要であると考えられると述べている。それを基に本校における「育成を目指す資質・能力」の位置付けについて表したものが図1である。

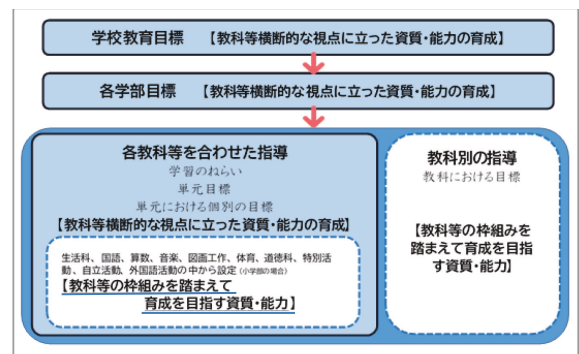


図1 本校の「育成を目指す資質・能力」の位置付け

(2) 研究構想

ア 本校の学校教育目標の実現に必要な「育成を目指す資質・能力」を明確にするためには、まず目の前の児童生徒の姿から検討していくことが取り組みやすいと考えた。そこで、各教科等を合わせた指導において「育成を目指す資質・能力」の検討から取り組むこととする。各教科等を合わせた指導における「教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力(図1の下線)」の確認をし、それを踏まえて、各教科等を合わせた指導、学部目標、学校教育目標により育成を目指す「教

科等横断的な視点に立った資質・能力」を明らかにする。

- イ 各教科等を合わせた指導と教科別の指導で取り扱う学習内容の関連を確認し、図2のように児童生徒の学びがつながるようそれぞれの単元の時期や学習内容の配列を検討する。

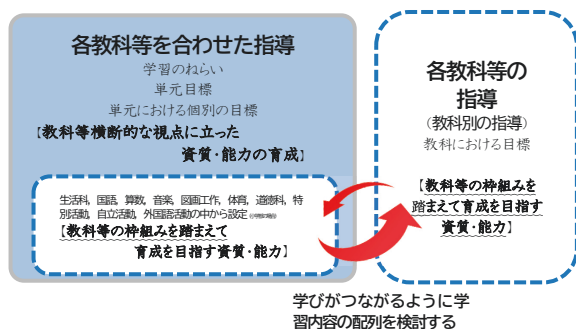


図2 学びをつなげるイメージ

- ウ 各教科等を合わせた指導と教科別の指導の関連を踏まえた授業づくりを行う。

5 研究の実際

- (1) 1年次の取り組み⁵⁾

- ア 各教科等との関連を踏まえた各教科等を合わせた指導の授業づくり

各教科等を合わせた指導については、学習指導要領では、各教科等の「育成を目指す資質・能力」を明確にして指導計画を立てることが求められている。「単元構想シート^{3) 4)}」を活用し、各教科等を合わせた指導に関連する各教科等の目標・内容を児童生徒全員分について確認を行った。それらを授業者間で共有し、単元計画を立てた。この確認した関連する各教科等の目標・内容が「教科等の枠組みを踏まえて育成を目指す資質・能力（図1下線）」になるものである。その授業について授業研究会を実施し、関連する各教科等の目標・内容を踏まえた授業づくりについて意見交換した。

- イ 本校における「育成を目指す資質・能力」の検討

「単元構想シート」により各教科等との関連を確認したことを踏まえ、小学部は遊びの指導と生

活単元学習、中学部と高等部は作業学習、各学部目標、学校教育目標において「育成を目指す資質・能力」について学部研究会や全校研究会等で検討を行った。

- (2) 2年次の取り組み

- ア 「育成を目指す資質・能力」の共有

明らかにした本校の「育成を目指す資質・能力」について、年度始めの全校研究会において共有を図り、授業づくりを始めた。

- イ 各教科等を合わせた指導と教科別の指導の学習内容の配列の検討

各教科等を合わせた指導に関連する各教科等の目標・内容を確認した1年次の取り組みを踏まえ、取り扱う学習内容の時期や期間について各学部で検討を行った。

各教科等を合わせた指導と教科別の指導で関連する学習内容がいつ取り扱われるのか一目で確認できるよう「各教科等関連表」を作成した。これを踏まえ、関連する学習内容を取り扱う教科別の指導の授業について授業研究会を実施した。学んだことが教科別の指導と各教科等を合わせた指導の中でそれぞれの学習場面でどのようにつながっていくのか、どう生かしていくのかについて意見交換した。

- (3) 授業づくりを中心としたカリキュラム・マネジメント

本校は長年授業づくりにこだわり、全校で児童生徒が「主体的に活動する姿」を目指した授業実践を行ってきた。カリキュラム・マネジメントに必要なポイントや本研究で明らかにした「育成を目指す資質・能力」及び「各教科等関連表」の作成を本校の授業づくりに当てはめ、図3のように整理した。

- (4) 学校公開研究会

11月26日の学校公開研究会では各教科等を合わせた指導の授業について、1年次に明らかにした「育成を目指す資質・能力」につながる授業であったのかを協議の柱に意見交換を行った。

いくためには、各教科等を合わせた指導で学んだことを教科別の指導で深めたり、教科別の指導で学んだことを各教科等を合わせた指導で発展させたりするなどしながら、身に付けた力を発揮できるようにしていく必要がある。そのために、児童生徒がいつ、何を学んでいるのかを確認し、その学びがつながるよう学習内容の配列を検討し、図4のような「各教科等関連表」を作成した。

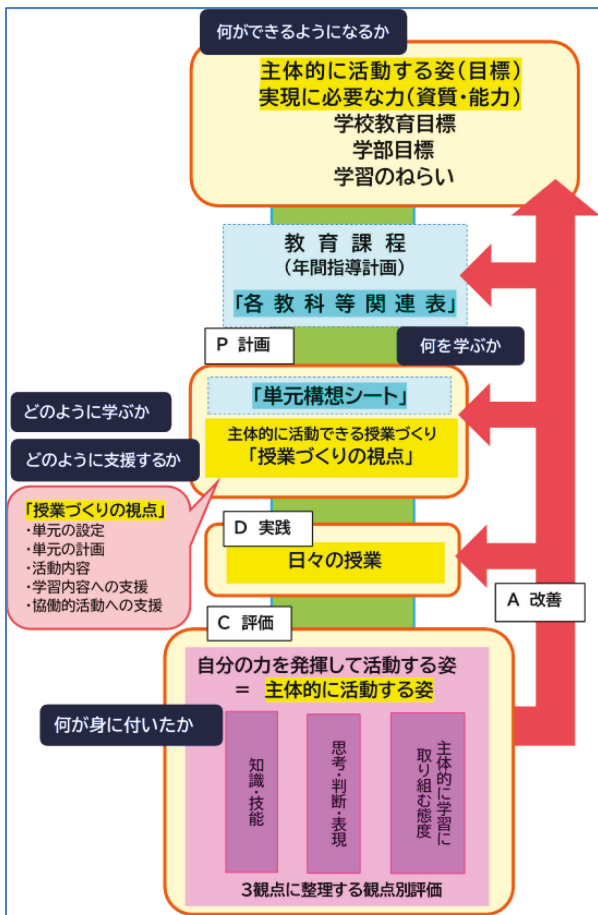


図3 授業づくりを中心とした
カリキュラム・マネジメント

6 結果

以下、(1)から(4)は図3のカリキュラム・マネジメントのポイントに沿って、(5)は学校公開研究会を受けての取り組み結果について述べる。

(1)何ができるようになるか

本校の学校教育目標、学部目標、学習のねらいは児童生徒の主体的に活動する姿を示しており、それらを実現するために必要な力を「育成を目指す資質・能力」と考え、全校研究会や学部研究会、授業研究会で検討を重ね、本校の「育成を目指す資質・能力」を明らかにした（資料1）。この「育成を目指す資質・能力」を育むことが今もっている力をいつでもどこでも誰とでも発揮できる確かな力に育てることになり、主体的で豊かに生きるという学校教育目標の実現につながると考え、全校で共有した。

(2) 何を学ぶか

①「各教科等関連表」の作成と活用

児童生徒がもっている力を確かな力に育てて

		4	5	6	7	8	9	10
行事	学校行事	新年度 入学式	教育実習①			夏休作業	教育実習②	
	学習行事	秋期開校		7・8期の内閣場実習	13年修学 19・20学年実習	20学年修学	21トライズ発表	2・20期の内閣場実習
1学期中	ガンフエ 展	7月ガンフエ版売会					あにわ祭版売会	
	校内現場 実習		校内現場 実習					校内現場 実習
総合的な 学習の 時間	1年		道徳 学習		作業しつ		職業所 見学	道徳 の学習
	2年						探究	
	3年							
1学年元 学習	1年	歓迎会 に向けて	カレンダー 作り	字級生単 習	字級生単 習		カレンダー 作り	表 飾り
	2年							
	3年							
グループ 別	自己紹介 ①	通計 ①時対①	手紙・お礼 状①	賞状・贈り 品・感謝①	贈り物リ クエスト	自己紹介 ②	通計 ②時対②	手紙・お礼 状②
	国語	前向きリーダー 授業のふりか けプロファイル マッシュアップ	お礼状、通算領 ・結果の振り返り内 容 ・振り返りのまとめ	本題考 「レシテ」 「涙を流す」	前向きリーダー 授業のふりか けプロファイル	お礼状、通算領 ・結果の振り返り内 容 ・振り返りのまとめ		
サイキョウ 学習	数学	・アノミダ図説 ・オノミダ図説 ・羽衣伝説 ・羽衣伝説	・主観的 ・少量 ・少額					
	英語							

夏季休業

作業学習と関連のある各教科の学習内容を記載し、学びのつながりが見えるようにした

図4 各教科等関連表（高等部）

作成した「各教科等関連表」を活用し、各教科等を合わせた指導に関連している学習内容を取り扱った教科別の指導について表 1 のとおり授業研究会を実施した。

表1 令和3年度実施した授業研究会

学部	教科名	単元・題名
		同時期の各教科等を合わせた指導
小	体育 (1・2年)	マット運動をしよう
		遊びの指導「ベタベタあそびをしよう」
中	国語・数学 おもしろ3組	注文販売に向けて学習しよう
		作業学習「注文販売をしよう」
高	国語・数学 トライ1組	買い物して、スイーツを作ろう
		作業学習「ガンプ工房販売会に向けて」

「各教科等関連表」を作成することで、他の学習とのつながりを意図した授業づくりを行うことができた。

②「単元構想シート」の作成と活用

岩手大学教職大学院 田淵・佐々木・東（2020）
により開発された「単元構想シート」を作成すること
で、その単元において児童生徒一人一人が何を

【資料1】

主体的に活動する姿(期待する姿)	主体的に活動する姿を実現するために必要な力		
目標及びねらい	知識及び技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等
学 校 教 育 目 標			
現在及び将来の社会生活において、主体的に、そして豊かに生きる人を育成する。 1 やりがいをもって意欲的に活動する人 2 自分の力で取り組む人 3 自分の役割に進んで取り組む人 4 精いっぱい活動し、満足感・成就感をもつ人 5 仲間とともに協力する人 6 心身ともに豊かに生きる人	○現在及び将来の社会生活に生きる知識・技能 様々な学習活動に取り組むために必要な知識・技能及び学習活動や生活に活用できる知識・技能	○自分で考え、行動する力 自分で考え、選び、決定し、実行すること ○仲間と一緒に取り組む力 自分の考えや思いを伝えたり、相手の考えや思いを受け入れたりしながら、仲間とともに考え、取り組むこと	○豊かに生きる力 自分の役割に意欲的に取り組んだり、見通しをもって自分から進んで取り組んだり、時間いっぱい取り組んだり、気持ちを整えながら最後まで取り組んだり、お互いを認め合いながら仲間と協力したりすることで達成感や満足感、成就感を得ながら活動すること
小 学 部 目 標			
(1) 生き生きと活動する児童 (2) 自分の力を発揮する児童 (3) 自分の役割に取り組む児童 (4) 存分に活動し、満足感をもつ児童 (5) みんなと仲良く、協力する児童 (6) 明るく元気な児童	学校生活の様々な活動や役割が分かり取り組む。	自分で考え、選択し、自分なりの手段で思いを伝えながら取り組む。	様々な経験をし、好きなことや得意なことを増やしながらか、みんなと楽しく取り組む。
遊びの指導 ねらい			
(1) 繰り返し遊んだり、自分なりに工夫したりしながら存分に遊ぶ。 (2) 友達や教師と楽しく遊ぶ。	遊具や遊び場の使い方や体の動かし方が分かる。	まねや工夫をして、友達や教師と一緒に遊ぶ。	楽しく、自分から、繰り返し遊ぶ。
生活単元学習 ねらい			
(1) 自分の力を発揮して活動に取り組み、満足感を味わう。 (2) 自分の役割を意識し、教師や友達と一緒に活動する。	活動内容や役割、体や手指の動かし方が分かり活動する。	選択や工夫をしたり、思いや考えを伝えたりしながら活動する。	楽しく、進んで、最後まで活動する。
中 学 部 目 標			
(1) 自分の仕事や活動にやりがいを持ち、意欲的に活動する生徒 (2) 自分の力で様々な活動に、存分に取り組む生徒 (3) 自分の役割に進んで取り組む生徒 (4) 活動を成し遂げ、満足感、成就感をもつ生徒 (5) 仲間と協力しながら楽しく活動する生徒 (6) 丈夫な体をつくり、すこやかな心をもつ生徒	これまでの経験を基に活動内容や自分の役割が分かり取り組む。	仲間とともに活動する中で、自分で考えたり、思いを伝え合ったりする。	仲間と協力し、やりがいを感じながら存分に取り組む。
作業学習 ねらい			
(1) 各作業班における目標を達成したり、課題を解決したりすることにより、仲間とともに主体的に作業に取り組んだ達成感や充実感を味わう。 (2) 実際の作業活動を通して将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を身に付ける。	作業内容や手順・役割が分かり作業する。	自分で考え、確認し、伝えながら作業する。	仲間とともに、目標に向けて作業する。
高 等 部 目 標			
(1) 自分の仕事や活動にやりがいを持ち、意欲的に活動する生徒 (2) 自分の力を十分に発揮して活動する生徒 (3) 自分から積極的に活動する生徒 (4) 精いっぱい作業に取り組む、働く喜び、成就感、達成感をもつ生徒 (5) 仲間と協力し合い、仲間との生活に楽しみをもつ生徒 (6) 心身ともに豊かに生きる生徒	目的や内容、役割が分かり、自分の力を発揮しながら精いっぱい活動する。	よりよく活動するために自分で考え、判断し、伝え合いながら活動する。	自分から取り組み、仲間とともに、最後まで活動する。
作業学習 ねらい			
(1) 各作業班における目標を達成したり、課題を解決したりすることにより、仲間とともに主体的に作業に取り組んだ達成感や充実感を味わう。 (2) 実際の作業活動や産業現場等における実習を通して将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を身に付ける。	手順や道具・用具の使い方が分かり、丁寧に、正確に、精いっぱい作業する。	よりよく作業するために自分で考え、判断し、働く仲間と確認や報告しながら作業する。	自分から作業に取り組み、働く仲間とともに、最後まで作業する。

学ぶのかを確認することができた^{3) 4)}。また、同じ学習活動であっても児童生徒の実態によって関連する各教科等の目標・内容が異なること、各教科等を合わせた指導には多くの各教科等の目標・内容が関連していること、授業者が関連する教科の内容を踏まえた支援を行ったことなどが授業研究会を通して明らかになった。

(3) どのように学ぶか どのように支援するか

本校では「授業づくりの視点」に基づいた単元づくりを行っている。「授業づくりの視点」に基づいた単元づくりを行うことで、児童生徒がどのように学ぶか、教師がどのように支援するかを児童生徒の実態に応じて明確にしながら授業実践ができるようになっていく。

(4) 何が身に付いたか

前次研究¹⁾で取り組んだ観点別評価を生かし、児童生徒の主体的に活動する姿を見取り、その見取った内容を「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点で整理した。このような観点別評価を行うことで、「主体的に活動する姿」という目標がぶれることなく授業実践を行うことができた。また、主体的に活動する姿について授業者間で確認しながら3観点到整理することでより具体的に児童生徒が何を学び、何が身に付いたのかを評価することができた。

(5) 学校公開研究会

新型コロナウイルス感染症予防の観点から、参加対象を県内の小中学校、及び特別支援学校の教員とし、かつ、各分科会の人数を制限しながら学校公開研究会を実施した。分科会では、どの授業においても児童生徒が主体的に活動している姿が多く見られたとの意見や感想が参加者から出された。また、本校の「育成を目指す資質・能力」につながる授業であったかということについては、後日、参加者から出された付箋をまとめたところ、どの授業においても「育成を目指す資質・能力」の三つの柱について付箋が出されていたことから、「育成を目指す資質・能力」につながる授業であったと考えられる。図5は小学部分科会の研究協議の付箋をまとめた

ものである。

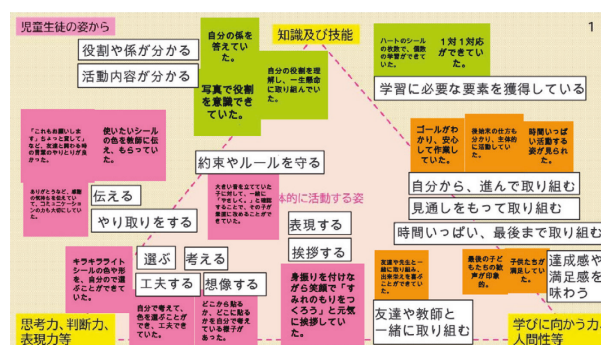


図5 研究協議記録のまとめ（小学部）

7 成果と課題

(1) 成果

- ① 本校の「育成を目指す資質・能力」を明確にすることができた。教育課程の中心に据えている各教科等を合わせた指導の「育成を目指す資質・能力」を明らかにし、全校で共有できた。
- ② 児童生徒一人一人の学びを確認する「単元構想シート」を踏まえながら、「各教科等関連表」を作成したことで、児童生徒の学びがつながるような指導計画を立てることができた。それにより授業者が他の学習との学びのつながりを意図した授業づくりが行えるようになった。
- ③ これまであった授業づくりの流れに、本研究で取り組んだ「育成を目指す資質・能力」、「各教科等関連表」「単元構想シート」を組み込むことで授業づくりを中心としたカリキュラム・マネジメントを確立することができた。

(2) 課題

- ① 学校公開研究会の参加者からの付箋により、明らかにした本校の「育成を目指す資質・能力」を意識した授業づくりはできていると考えられる。しかし、日々の授業づくりに無理なく自然に落とし込むためには、まだ検討が必要である。
- ② 児童生徒一人一人の学びを確認しながら授業づくりを行うことができるという意味で「単元構想シート」は大変有効である。しかし、実践される単元全てにおいて作成することは、膨大な

時間を要するなど現実的ではない。今後、どのように活用していくか検討する必要がある。

8 おわりに

今後も、本校の「育成を目指す資質・能力」を育んでいき学校教育目標の実現につながるような授業実践をしていきたい。そのために、次年度は、本校の「育成を目指す資質・能力」及び「各教科等関連表」を教育課程に位置付けたり、遊びの指導、生活単元学習、作業学習において関連する各教科の学習内容等を年間指導計画に記載したりすることとした。これまでの取り組みを普段使いできる形で整理することで、授業づくりを中心とした本校のカリキュラム・マネジメントを好循環させていきたい。

文 献

- 1) 中村くみ子・昆亮仁・山口美栄子・高橋幸・伊藤慎悟・阿部大樹・上濱龍也(2020): 児童生徒一人一人が今、主体的に活動できる授業づくりー観点別評価の取り組みを通してー. 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 7, 1-6.
- 2) 文部科学省(2017): 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)
- 3) 田淵健・佐々木全・東信之・阿部大樹・田口ひろみ・中村くみ子・岩崎正紀・藤谷憲司・上濱龍也, 最上一郎, 名古屋恒彦(2020): 育成を目指す資質・能力を踏まえた各教科等を合わせた指導の授業づくりの要領の開発ー特別支援学校小学部におけるアクション・リサーチからー 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 7, 135-140.
- 4) 田淵健・原田孝祐・佐々木尚子・大森響生・中村くみ子・藤谷憲司・高橋幸・小原一志・本間清香・細川絵里加・佐藤佑哉・東信之・佐々木全(2021): 育成を目指す資質・能力を踏まえた「各教科等を合わせた指導」の授業づくり要領の開発(2)- 知的障害特別支援学校中学部・高等部を対象とした「単元構想シート」- 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 8, 152-158
- 5) 中村くみ子・本間清香・高橋幸・細川絵里加・佐藤佑哉・小原一志・上濱龍也(2021): 児童生徒の確かな力を育む学びを目指して 岩手大学教育学部プロジェクト推進支援事業教育実践研究論文集, 8, 1-5.